



Hokkaido Lifelong Learning Association

ほっかいどう 生涯学習 Lifelong Learning

ホームページアドレス <http://www.hsgk.jp>

新しい自分との

出会いや発見がきっとある



(写真提供 三原和廣氏)

(撮影地 倶知安町)

目次

●平成26年度「第1回理事会・評議員会開催」……	2	●私の生涯学習……	5
●これからの生涯学習を展望して……	3	●「かでの講座」のお知らせ……	5
●わがまちの生涯学習……	4	●随想26……	6

平成26年度第1回理事会・評議員会開催

5月12日理事会、5月26日評議員会がそれぞれ開催され、「平成25年度事業報告」、「平成25年度決算報告、監査報告」及び「理事の補充選任（案）」、「評議員の補充選任（案）」が審議され承認されました。

新旧役員・評議員紹介

【退任】

副会長 鈴木文男（北海道社会教育委員連絡協議会会長）
評議員 前田和道（日本ボーイスカウト北海道連盟副理事長）

【新任】

副会長 松藤藤吉（北海道公民館協会会長）
理事 大島峰夫（北海道社会教育委員連絡協議会会長）
評議員 扇間康弘（日本ボーイスカウト北海道連盟コミッショナー）

正味財産増減計算書内訳表

平成25年4月1日から平成26年3月31日まで

（単価：円）

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計	法人会計	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	3,260	0	3,260	6,520
受取会費	756,500	0	756,500	1,513,000
事業収益	1,057,960	0	0	1,057,960
受託事業収益	31,725,000	1,030,000	5,970,000	38,725,000
受取補助金等	5,617,000	0	0	5,617,000
受取寄付金	100,000	0	100,000	200,000
雑収益	30,000	0	15,000	45,000
経常収益計	39,289,720	1,030,000	6,844,760	47,164,480
(2) 経常費用				
事業費	39,726,676	403,326	0	40,130,002
給料手当	18,409,815	139,000	0	18,548,815
臨時雇賃金	2,445,000	0	0	2,445,000
福利厚生費	2,687,984	24,000	0	2,711,984
旅費交通費	1,064,040	0	0	1,064,040
通信運搬費	1,595,001	82,011	0	1,677,012
消耗品費	1,614,247	70,781	0	1,685,028
印刷製本費	4,056,570	0	0	4,056,570
賃借料	949,619	33,429	0	983,048
諸謝金	630,500	0	0	630,500
租税公課	755,400	37,100	0	792,500
支払負担金	5,235,000	0	0	5,235,000
委託費	283,500	17,005	0	300,505
管理費	0	0	6,042,483	6,042,483
給料手当	0	0	4,296,740	4,296,740
福利厚生費	0	0	664,610	664,610
会議費	0	0	24,228	24,228
旅費交通費	0	0	168,700	168,700
通信運搬費	0	0	87,652	87,652
消耗品費	0	0	398,547	398,547
賃借料	0	0	28,467	28,467
租税公課	0	0	219,250	219,250
支払負担金	0	0	138,014	138,014
委託費	0	0	14,495	14,495
雑費用	0	0	1,780	1,780
経常費用計	39,726,676	403,326	6,042,483	46,172,485
当期経常増減額	△ 436,956	626,674	802,277	991,995
2. 経常外増減の部				
他会計振替額	313,337	△ 626,674	313,337	0
当期一般正味財産増減額	△ 123,619	0	1,115,614	991,995
一般正味財産期首残高	0	0	7,495,859	7,495,859
一般正味財産期末残高	△ 123,619	0	8,611,473	8,487,854
II 指定正味財産増減の部			0	
指定正味財産期首残高	0	0	20,000,000	20,000,000
指定正味財産期末残高	0	0	20,000,000	20,000,000
III 正味財産期末残高	△ 123,619	0	28,611,473	28,487,854

「これからの生涯学習を展望して」

元札幌国際大学学長（北海道生涯学習協会評議員）

小山 忠 弘

生きるということは学びつづけるということ

先日「百歳が平均寿命そんな日が」（道新川柳26,4,30）という川柳が目にとまりました。わが国はわずか25年間くらいで、高齢化社会、高齢社会、超高齢社会、長寿社会と、高齢化率が世界に類を見ない速さで変化して来ました。これからの市町村の課題として、マスコミは高齢化率の高さを取り上げていますが、プラス思考で捉えれば平均寿命が延びた分、学習する時間や多様な活動の機会が増えたということにもなります。

聖路加国際病院名誉院長の日野原重明（102歳）さんは、年齢を重ねるごとに、どんどん新しいことに挑戦しています。97歳でオーケストラの指揮者を経験しました。もちろんそのための猛勉強をされたのです。98歳で猛練習してミュージカルに出演しました。99歳からストレッチを始めて体を鍛えています。そして100歳になったとき、若者をはじめ、多くの人が行っているフェイスブックに挑戦して、みごとその方法をマスターしたのです。102歳では、子どもの頃お世話になったおばあちゃんのことを書いて、絵本をつくりたいという夢は、平成26年3月に『だいすきなおばあちゃん』を出版して実現しました。

このように、健康で学ぶ意欲（好奇心）があれば、年齢や性別に関係なく死ぬまで学び続けることが出来るのです。

学んだ成果をどう活かすかが課題

学び続けるということは、多くの知識や技術を蓄え続けるということではありません。とりわけ高齢者の皆さんは、これまでの長い人生において蓄えてきたチエやワザを次世代に伝える活動、つまり学んだ成果をボランティア活動などを通して、地域に還元していただきたいのです。それも立派な生涯学習活動なのです。

法律が改正されて65歳まで働けるようになりましたが、80歳でも隠居など考えず、肉体労働や頭脳労働など、自分の出来る範囲で働いたり、地域の元気な高齢者が近隣の独居高齢者を支え合活動などが強く求められています。年金が年々減らされて行くとか、今まであった福祉サービスがなくなったなどと嘆き、「主食より薬とサプリで胃を満たし」の川柳のような生活を送るのではなく、自立した幸齢者になるための老人力（年輪力）、住民力、近所力を高める学習活動が期待されているのです。

長寿社会に入った今日、どれだけ長生きしたかに価値があるのではなく、長生きした人生の中で、安全で安心な住みよい町内会づくりやボランティア活動などに、どれだけ貢献して来たか、その時間の長さに価値があるのだと思います。

■■■平成26年度情報交流広場（まなびの広場）展示計画■■■

実施期間（予定）	実施団体名	実施期間（予定）	実施団体名
7 / 1 ~ 7 / 30	札幌ユネスコ協会	11 / 4 ~ 11 / 14	国立大雪青少年交流の家
8 / 18 ~ 8 / 29	にじの会（ちぎり絵）	11 / 17 ~ 11 / 28	国立日高青少年自然の家
9 / 1 ~ 9 / 12	大窪淑絵と彫刻家	12 / 1 ~ 12 / 26	北海道文化財保護協会
9 / 16 ~ 9 / 30	北海道立特別支援教育センター	1 / 5 ~ 1 / 30	公益財団法人北海道生涯学習協会
10 / 1 ~ 10 / 15	大学インターネット講座実行委員会	2 / 16 ~ 2 / 27	北海道心の教育推進会議
10 / 16 ~ 10 / 31	絵画サークルたんぽぽ	3 / 2 ~ 3 / 13	写真集団はまなす

わがまちの生涯学習

恵庭市教育委員会

教育長 穂積 邦彦

恵庭市は、札幌と新千歳空港の中間に位置し、恵まれた交通アクセスと穏やかな気候風土を持つ人口約69,000人のまちである。市民によるまちづくりが盛んで、「ガーデニングのまち」としても知られている。また、ブックスタートを全国の自治体に先駆けて実施し、平成25年4月には「人とまちを育む読書条例」を施行、「まちじゅう図書館」などのユニークな取り組みも始まり「読書のまち」づくりにも力を入れている。

■楽しく学んで、その成果が生かされる地域づくり～生涯学習基本計画～

本市の生涯学習は、平成6年に生涯学習基本構想を策定し、基本理念「楽しく学んで、その成果が生かされる地域づくり」のもと、現在は第3期生涯学習基本計画に基づき様々な施策を展開している。

この計画の特徴は、「市民と行政との協働」を軸に推進していることである。具体的には市民組織（生涯学習推進協議会）と行政組織（生涯学習推進会議）が両輪となり、毎年、市民委員が様々な生涯学習事業の現場に出向き、評価し、その声を生かしながら事業展開する（PDCAサイクル）ことで、計画に実効性を持たせている。現在進行形の計画とも言えるが、それは「計画策定そのものが生涯学習」という考え方に立っているからである。

■地域のつながりのために～地域住民が主体となった事業～

□つどう・まなぶ・つながる～「コミュニティスクール」

市内には8校の小学校があるが、そのうち2校区（恵み野小学校、島松小学校）でコミュニティスクールという事業に取り組んでいる。この事業は、「学校という教育施設は地域の生涯学習施設でもある」と捉え、地域住民が主体となって、「子どもたちとともに大人自身も楽しむ」をモットーに、地域に根ざした学びあいを通して、心豊かなふれあいと活力ある地域を築いていこうとするものである。

それぞれの校区において地域住民によるコミュニティスクール推進協議会が、地域の子どものニーズに応える形で様々な事業を実施し、各地区とも年間通して延べ千人以上の参加がある。最近では夏休みや冬休みなどに、様々な特技を持った地域の方が講師となり、子ども達にいろいろなことを教え体験させる「子ども教室」も実施している。

このような実践が評価され、石狩管内教育実践奨励表彰もそれぞれ受賞したが、地域の方が気軽に学校に_stdio、そこからつながり、新たな地域活動が生まれていることが一番の成果と考えている。

□大人と子どもが共に学ぶ取り組み～「通学合宿」

通学合宿の取り組みは全道各地で広がりを見せているが、恵庭市は道内でもいち早く、しかも地域住民から産声を上げた経緯もあり、今では市内の半数の校区で実施している。「地域の子どもは地域で育む」ことをねらいとし、平成25年度は2泊3日から7泊8日程度で実施され、市内全体で、109名の子どもが参加し、延べ800名の大人や学生が支援に参加した。生涯学習基本計画に謳っている「共に学び！共に考え！共に行動！！」のとおり、地域の大人が、子どもと共に学びあい、ふるさと教育として優れた実践を繰り広げていることが素晴らしい。地域づくりにつながっている通学合宿がさらに広がっていくことを期待し、支援していきたいと考えている。

今後とも、市民が出会い、学びあい、恵庭のまちをもっと知り、好きになり、このまちで生きがいを持って生活することに幸せを感じるような生涯学習社会を更に進めていきたい。



コミュニティスクールでの「みそづくり」

私の生涯学習

道民カレッジ生 土佐林 薫

私は現在84歳であります。標題に入る前に私が生まれてから歩み続けた人生について感じたことを含め簡単に触れさせて戴きます。

学業を終え社会に出る迄の前半は、軍国主義一色の時代でした。太平洋戦争が勃発し敗色が濃くなるにつれて私達も勉強どころでなく、援農に軍需工場にとかり出されました。終戦を迎え、私達は動員先の千歳海軍工廠より久し振りに学校に戻ることができましたが、校舎や設備品も荒廃しており、また、教科書も無く、勉強できる環境に戻るまで長い月日を費やしました。

この様に学生として勉強したい時期にできなかった無念さは生涯忘れることはできません。

社会に出てからの後半は、自動車販売会社に入社し、定年を迎えるまで38年有余勤務いたし退社しました。引き続き第二の職場でボイラー技士として18年間勤務させて戴きました。

戦後の混乱した日本にも、高度経済成長期が訪れ、モータリゼーションにより自動車産業も順調に伸びた時代でありました。お陰様で56年に及ぶ長い社会人生活を大過なく務め終えたことを喜んでいますが、然し、個人的に勉強したいと考えたことは、何一つ纏まった学習成果が得られませんでした。これは全て自分の意志の弱さが原因と反省しております。

私が生涯学習に取り組んだのは76歳からであります。最初に高齢者対象の「創造学園」続いて「札幌シニア大学」に入学いたしました。両校とも2年制で所定のカリキュラムでの授業です。全校生を10名前後のグループ編成で仲間意識を持ち共同研究、運動会等実施しました。

「道民カレッジ」には平成20年に入りました。特色は一定のカリキュラムでなく、大学、研究施設等との提携により、分野の広い豊富な講座から自由に選択受講するユニークなシステムであり、単位取得による称号認定制度も励みになっております。私は沢山の講座より興味のある次の分野に重点をおきながら、学習を続けています。

「考古学関係」…札幌国際大学公開講座に現役の学生さんと机を並べ1年間勉強しました。

「北海道開拓の歴史関係」…ほっかいどう学を学ぶ会で研究発表会、見学ツアーに参加。

「アイヌ民族の歴史・文化関係」…「その他」…一般教養日本史、東洋史等、生涯学習により新しい事を知る喜びに、生き甲斐を感じています。亦、個人的に蓄積した知識を社会に何等かの方法で還元することも大事なことと思います。当面は従来通り学習に努力いたします。

何事を行うにも健康維持が基本です。晴天の日は庭木いじり、畝で雑草と汗を流し闘っていたり、仲間と「囲碁」を楽しんでいます。

最後に、公益財団法人北海道生涯学習協会、道民カレッジが益々ご発展されますことを期待いたします。

『ほっかいどう学』かでの講座

会場 道民活動センター（かでの2・7）〒060-0002 札幌市中央区北2条西7丁目（820研修室）13：30～15：30

定員 120名 当日、会場での受け付けもできます。

単位認定 道民カレッジの指定講座として必修1単位、または「ほっかいどう学」コース2単位のいずれか選択可。

受講料 500円。賛助会員は1講座400円。

*受講料は、受講当日に納入してください。（既に納めた受講料は、返納できません。）

1回目	5月16日(金) 『漢方の極意～心が元気で身体も健康～』 北海道医療大学薬学部 准教授 堀田 清 氏	6回目	10月9日(木) 『カホンで楽しむドラムのリズム～世界のリズムにのせて～』 ドラム・打楽器奏者 大山 賢司 氏
2回目	6月17日(火) 『卓上四季執筆～新聞コラム論～』 北海道新聞社編集局 解説委員 菅原 淳 氏	7回目	11月27日(木) 『知られざる北の国境』 北海道新聞社 編集委員 相原 秀起 氏
3回目	7月28日(月) 『戦国時代における大名の権力構造』 北海道大学文学研究科 助教 平井 上総 氏	8回目	12月15日(月) 『心臓病ってこわくないの？～三浦雄一郎氏エベレスト登頂を支えた経験から～』 心臓血管センター北海道大野病院、国勝山岳区 北海道警務山岳連隊教頭アドバイザー 大城 和恵 氏
4回目	8月4日(月) 『終活してますか？～エンディングノートの必要性～』 エンディング総合支援サポートの会 会長 池田 智裕 氏	9回目	平成27年1月20日(火) 『北海道の自然エネルギーの可能性と実践』 北海道グリーンファンド 事務局次長 小林 ユミ 氏
5回目	9月19日(金) 『古代文字の歴史と楽しみ方～古代文字を書いてみよう～』 北海道教育大学 非常勤講師 瀧野 喜星 氏	10回目	平成27年2月12日(木) 『病院に笑顔を咲かせる道化師～病院訪問活動を通して～』 日本ホスピタルクラウン協会北海道支部 事務局 太田 恵美 氏

随想26

趣味に生きる愉しみ

今回の話は「趣味に生きる愉しみ」としたが、これは中野孝二という方の本のタイトルである。サブタイトルが「老年の過ごし方」となっている。私も今年2月に古稀を迎え、まさしく老年であり、居酒屋のマスターをしながら趣味に生きているつもりである。この中野氏の本の中に、「居酒屋」という一節がある。いい居酒屋にはいくつか条件があるという。

- 1：個人（家族）店で、店主が酒選びにも肴作りにも独自の主張（味の哲学）を持っていること。
- 2：古くからやっていて、常連が店独特のマナーや雰囲気を作りあげていること。
- 3：店と客の間にゆるやかな（べたつかない）人間関係（好意と信頼）が成り立っていること。

以上の3点である。なるほど然り！と思わずニヤリとする。「本当に酒を愛する酒呑みは、雰囲気は何より重んじる。酒も肴も居心地もみな良くてはならない。だから骨身を惜しまず探し回って、いい居酒屋を見つけるとそこばかり通うようになる」とも言っている。

思えば、札幌でも東京でもこのような気持ちで居酒屋を訪ねていた自分の姿を見るようである。東京時代にふと訪ねた店がある。杉並区梅里の商店街に面した「啄木亭」という名の店で、古色然

とした構えで、何か気になってそっと入ってみたのである。とても上品な年配のおかみさんとその息子さんと思われる男性がカウンターの中にいる。店の中も古色然とし、古い石川啄木の写真が壁にかかっている。「やはり啄木とゆかりの方なのか」と一人微笑む。肴はおでんと魚の干物など少量。燗酒は昔ながらのちろり（銚釐＝酒の燗をするのに用いる銅・真鍮・錫製の容器）で温めている。カウンターと椅子席三つほどの小さな店で、客の会話も静かで、まさに常連と店の人が店独特のマナーや雰囲気を作っている感じ。不思議と若いカップルの客が多かった気がするが、「酒と雰囲気を好む若い人がいるのだな～。日本も捨てたものじゃないな～」なんて勝手に思った次第である。

そのような経験をしたのであるが、私の店にいらっしゃるお客様もこのような雰囲気を求める年配の方が結構多いような気がする。アンチ・エイジングも良いが、年齢を素直に受け入れたスマート・エイジングで生きようと思うのもいいのではないだろうか。東北大学にはスマート・エイジング国際共同研究センターがあるという。高齢化社会を真剣に考えておられるのであろう。

(公財) 北海道生涯学習協会
会長 宇田川 洋

新入会員紹介(敬称略)

次に方々が新たに賛助会員になられました。今後ともよろしくお願いいたします。

- 熊谷 ゆき
- 林 芳 男
- 丹羽 元 美
- 小山 忠 弘

事務局からのお知らせ

●生涯学習協会賛助会員募集

- 賛助会費：個人会員～1口 3,000円
- 団体会員～1口 10,000円
- (個人・団体何口でも可)

会員の方には、会報「ほっかいどう生涯学習(年4回発行)」を送付させていただくほか、「かでの講座」の優待券(2回無料)と400円での受講(通常500円)ができます。

また、賛助会費(寄附金)は、税制上の優遇措置を受けることができますので、詳しくはHP(ホームページ)をご覧ください。

編集後記

里山がすがすがしい新緑から力強い青葉へと移りゆくころとなりました。多くの皆様の支えの中で当会報も101号としてスタートしました。前号では100号記念としてこれまでの歩みの一瞬を切り取ってみました。改めて皆様にご紹介したい内容も沢山ありましたが、紙面の制約もあり多くが叶いませんでした。1号から100号まで、人間に例えれば0歳から25歳までの歩みであり、101号から次の200号までは20歳代後半から40歳代へと、働き盛りに向かう時期であります。この時期は、

働き盛りとともに、過労死や生活習慣病にも気をつけなければならない年代でもあり、何よりも健康が第一であります。当協会もこれまで以上に健全な運営を目指し多くの道民の皆様のお役に立てるよう、今年度も職員一同努めてまいりますので、皆様のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。(追記)新日本法規出版(株)様には賛助会員としてご支援いただくとともに、書籍等パンフレットの提供をいただき会報発送に合わせ皆様にお送りいたしております。